

ほびきぶね 霞ヶ浦の観光帆曳船

茨城県かすみがうら市／行方市／土浦市



写真 帆曳船発祥の地 記念碑

霞ヶ浦の観光帆曳船（表紙写真）は、霞ヶ浦の夏から秋にかけての風物詩である。1880（明治13）年、かすみがうら市（旧・佐賀村）出身の漁師・折本良平によって考案された。帆の原理を応用し、巨大な帆を張り、風の力を受けて船を横流しすることで水中の網を引く漁法である。多くの人手が必要であった当時の漁法に比べ、一人で自由に魚を捕れる帆曳網漁は画期的な漁法で、シラウオやワカサギの漁に使われた。

1960年代後半になると、動力機付き漁船の普及により、帆曳網漁はトロール漁法に取って代われ、間もなく姿を消したが、霞ヶ浦漁業の歴史を知る上で極めて重要な文化的遺産であることから、1971（昭和46）年に観光船として復活した。2018年には「霞ヶ浦の帆曳網漁の技術」が国選択無形民俗文化財に選定された。

現在も霞ヶ浦に面するかすみがうら市、行方市、土浦市の3つの市で操業されている。年に一度、3市の帆曳船が湖上に出航し一堂に会する。湖上に浮かんださまざまな色の帆曳船が秋の霞ヶ浦を彩る。

※表紙写真 写真提供：ピクスタ Sumiko / PIXTA（ピクスタ）

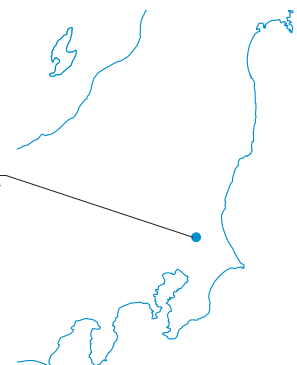
■アクセス 観光帆曳船

- かすみがうら市
常磐自動車道千代田石岡 IC または土浦北 IC から車で約 35 分
- 行方市
麻生地区：東関東自動車道潮来 IC から車で約 50 分
玉造地区：常磐自動車道千代田石岡 IC から車で約 35 分、
東関東自動車道潮来 IC から車で約 50 分
- 土浦市
常磐自動車道土浦北 IC から車で約 5 分、桜土浦 IC から車で約 10 分

（表紙の写真）

霞ヶ浦の観光帆曳船

場所：茨城県かすみがうら市
行方市／土浦市



<参考>

いばらき観光キャンペーン推進協議会

<https://www.ibarakiguide.jp/site/seasons/kasumigaura-hobikisen.html>